

地域のニーズにこたえる

社会福祉法人による地域公益活動の取り組み事例

至誠学舎立川・各事業本部（施設）における取り組み

社福）東京都社会福祉協議会（事例集抜粋）

（社福）至誠学舎立川

本法人における地位公益活動の取り組み事例の報告について

理事長 橋本 正明

福祉法改正を踏まえて、現在社会福祉法人求められている地域貢献事業について、本法人の取り組みをまとめて情報発信したいと思います。別紙の地域公益活動事例の様式によって、以下の条件に合う事例を報告してください。また後日、その事例をレポートの体裁で報告をいただく場合があります。

事例とは対象を本事業利用者ではなく以下の三つの条件を満たしている活動に限ります

- ① 社会福祉事業または公益事業を行うにあたって提供される福祉サービス
- ② 日常生活または社会生活上の支援を必要とする者に対する福祉サービス
- ③ 無料又は定額な料金で提供される活動

<参考 地域公益事業 法 24 条第 2 項>

援護局基盤課長通知に示されている地域公益事業

・介護保険制度外の生活支援サービス・在宅支援事業

例：家事支援、配食、カフェ、入退院手伝い、移動支援、居場所づくり等

・低所得世帯等への生活支援

例：低所得者への相談支援、住居の提供、就労支援、低所得世帯の子供への学習支援、奨学金支援等

・施設退所者・退所児童に対する継続的支援

例：当該者への相談支援、生活資金の助成、住居の提供、就労支援、奨学金助成等

法人としては自治体レベルの地域公益事業として、立川社協が調整をしている立川との防災協定を持って取り組みます。また法人独自の活動取り組みを整理して発行します。

なお本法人の取り組みは東社協のホームページの掲載と本法人のホームページにアップすることを想定しています。また事例レポートとして東社協発行の事例集に投稿掲載を想定しています。

本報告書は東社協から平成 28 年 3 月に発行された事例集からの抜粋資料と本法人の事例を載せています。

地域のニーズにこたえる
社会福祉法人による地域公益活動の取り組み事例
至誠学舎立川・各事業本部（施設）における取り組み

目次

本法人における地域公益活動の取り組み事例報告について

保育事業本部

| | |
|----------------|----|
| 1、至誠保育園 | 1 |
| 2、至誠第二保育園 | 2 |
| 3、小百合保育園 | 3 |
| 4、諏訪の森保育園 | 4 |
| 5、万願寺保育園 | 5 |
| 6、しせい太陽の子保育園 | 7 |
| 7、至誠あずま保育園 | 11 |
| 8、成育しせい保育園 | 12 |
| 9、成育しせい保育園梅丘分園 | 19 |
| 10 至誠いしだ保育園 | 22 |
| 11 代々木至誠こども園 | 23 |

至誠学園 児童事業本部

| | |
|----------|----|
| 1、事業本部活動 | 24 |
| 2、至誠学園1 | 25 |
| 3、至誠学園2 | 26 |
| 4、至誠学園3 | 27 |

至誠ホーム 高齢事業本部

| | |
|--------------------------|----|
| 1、至誠ホームソーシャルワークセンター（SWC） | 28 |
| 2、至誠特別養護老人ホーム | 29 |
| 3、至誠コミセンター | 30 |
| 4、至誠ホームキートス | 31 |
| 5、至誠和光ホーム | 32 |
| 6、至誠ホーム調布若葉ケアセンター | 33 |

| | |
|--------------|----|
| 東社協 事例総括資料から | 34 |
|--------------|----|

至誠保育 保育事業本部

至誠学舎立川 地域公益活動事例

| | | | |
|--------|------------------------|------|--------------|
| 事業本部 | 保育事業本部 | 施設名 | 至誠保育園 |
| 責任者 | 稲永 勝行 | 担当者 | 青柳 真実 |
| TEL | 042-524-1500 | FAX | 042-524-1574 |
| E-mail | nonna0@shisei-hoiku.jp | 活動地域 | 立川市 |

| | | |
|---------------------------------------|---|---|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を 付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | |
| | ② 書き下ろし記事 | |
| | ③ その他 | ○ |
| 事例の名称 | ノーバディーズパーフェクト事業 | |
| 実施体制 | 週一回 全7回セッション 担当者ファシリテーター保育士1名 青柳真実 | |
| 取組みの開始年 | 西暦 2009 年 9 月 | |
| 取組んだきっかけ・地域のニーズ | 親なら初めてでも子育てが出来て当たり前だと親自身も周りもそう思い込んでいるが孤独な子育てはとでも大変である。そこで「みんなで子育て」の糸口として、0～5歳児までの子どもを持ち、子育てが難しいと感じている親の為に、進行役のファシリテーターと共に参加者がそれぞれに抱えている悩みや関心についてグループみんなで話し合い自分に合った子育ての仕方を学んでいく「子育ての輪」を作り自立した親になる為のサポートの場として実施。 | |
| 主な対象者 | 地域 自園の一時保育や子育てサークルの利用者 対象 乳児(5ヶ月から3歳)を育児中の母親 | |
| 具体的な内容 | <p>・親がそれぞれに抱えている悩みや関心についてグループで話し合いながら、自分にあった子育ての仕方を学んでいく</p> <p>① 子どもの健康や安全、しつけなどについて学ぶ</p> <p>② すでに持っている子育てのスキルを高め、新たなスキルを習得し練習する</p> <p>③ 自分の長所や能力に気づくことによって、親としての自信をつける</p> <p>④ 学習しながら他の親と知り合ったり、くつろいだり、楽しんだりする</p> <p>⑤ 他の親との繋がりを深め、助け合い、サポートしあえる関係をつくる</p> | |
| 取組みの工夫 | 園の情報誌・チラシを見て申し込みがあった対象者の条件を満たす11名の母親に向け、ファシリテーターの保育士1名が7回のセッションを実施する。その間児童は園の保育士が保育にあたる。セッションは母親達で組み立てる。セッションの中で、既に持っている子育てのスキルを高め、自分の長所や能力に気づく事によって、親としての自信をつける。セッションの途中にはティータイムも設け、くつろげる場であり、グループの繋がりを高めていく。7回のセッションの間はセッション中も利用する子育てテキスト「完璧な親なんていない」を貸し出し、家庭でも困った時の道案内としてつなげ、自分で解決できる方法を身につけていく。 | |
| 取組みの成果 | 参加者が回数を重ねるごとに打ち解けていき参加者の興味と関心、実際の抱えている問題に役立つ内容になるように工夫した。体験学習サイクルを特に意識して、各回で誰かの問題を取ってサイクルにあてはめ具体的に学習できるようにしたので、体験学習サイクルを自分の生活にあてはめられるようになっていく人もいた。全体の話した内容、自分たちで出し合ったアイデア等を家に帰っても思い出せるように、毎回簡単なまとめを作り、最終回では保育の様子の子の写真と共にアルバム制作を皆で行なった。母親達の特徴が変わりつつあることを感じた。 | |

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕 年 月 日

| | | | |
|--------|------------------------|------|--------------|
| 事業本部 | 保育事業本部 | 施設名 | 至誠第二保育園 |
| 責任者 | 三浦修子 | 担当者 | 三浦修子 |
| TEL | 042-581-0446 | FAX | 042-518-7644 |
| E-mail | daini@shisei2-hoiku.jp | 活動地域 | 日野市 |

| | | |
|--------------------------------------|---|---|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | ○ |
| | ② 書き下ろし記事 | |
| | ③ その他 | ○ |
| 事例の名称 | ボランティアの受入れ | |
| 実施体制 | 個別対応 ・ 夏季は日野市社会福祉協議会と連携 | |
| 取組みの開始年 | 西暦 1996 年 月 | |
| 取組んだきっかけ・地域のニーズ | 小学生の学童等後の居場所づくり 小、中、高生の職場体験 ボランティア精神の涵養 | |
| 主な対象者 | 小、中、高、大学、一般等 | |
| 具体的な内容 | ・夕方のボランティア ・夏季ボランティア ・年間を通して一般の方のボランティア | |
| 取組みの工夫 | ・主任を窓口として、「ボランティアのしおり」で活動内容を具体的に説明 | |
| 取組みの成果 | ・今年度途中実績 夕方ボランティア小学生1名 夏季ボランティア約50名 一般ボランティア1名 | |

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕 平成 28 年 7 月 27 日

| | | | |
|--------|-------------------------|------|--------------|
| 事業本部 | 保育 | 施設名 | 小百合保育園 |
| 責任者 | 玉城 新 | 担当者 | 玉城 新 |
| TEL | 042-527-7924 | FAX | 042-523-4689 |
| E-mail | sayuri1.shisei-hoiku.jp | 活動地域 | 立川市 |

| | | |
|--------------------------------------|--|---|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | |
| | ② 書き下ろし記事 | |
| | ③ その他 | ○ |
| 事例の名称 | 高齢者施設訪問 | |
| 実施体制 | | |
| 取組みの開始年 | 西暦 2015 年 4 月 | |
| 取組んだきっかけ・地域の ニーズ | サービス推進費 子育て支援事業として行っていたが、新制度となり加算の対象ではなくなったが、継続して実施している。 | |
| 主な対象者 | あおやぎ苑 入所者 | |
| 具体的な内容 | あおやぎ苑に年長児が訪問し、入所者の方との交流をもっている。ゲームを通しての触れ合いや、行事を通しての日本の文化・遊びの伝承をいただく機会ともなっている。 | |
| 取組みの工夫 | 高齢の方に対する接し方を子どもたちに伝えると共に、実際の対応を体験し、お年寄りと触れ合うことの喜びから、子ども達自身に敬う心の育ちに繋がる場としている。 | |
| 取組みの成果 | 訪問先でのマナー、高齢者と接する上でのマナーを知る良い機会をいただいている。また、子どもとの触れ合いを通しての入所者の方の笑顔が見られることが一番の成果である。 | |

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕平成28年7月27日

| | | | |
|--------|--------------|------|--------------|
| 事業本部 | 保育事業本部 | 施設名 | 諏訪の森保育園 |
| 責任者 | 齊藤 佐知子 | 担当者 | 石田 みな子 |
| TEL | 042-522-2589 | FAX | 045-522-2595 |
| E-mail | | 活動地域 | |

| | | |
|--------------------------------------|---|--|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | |
| | ② 書き下ろし記事 | |
| | ③ <u>その他</u> | |
| 事例の名称 | 町会活動(自治会に所属) | |
| 実施体制 | 担当者を中心に園全体で協力する。 | |
| 取組みの開始年 | 西暦 2000年 4月 | |
| 取組んだきっかけ・地域の ニーズ | 開設時より地域に密着した園ということで取り組む。 | |
| 主な対象者 | 町内会の方々 | |
| 具体的な内容 | 園が属している柴一協和会の定例会に出席し運営に参加。お祭り の際に園として山車引きに参加また休憩所として園庭を開放、飲み物 等をふるまう。盆踊りの際には夜店を出店(ヨーヨー無料)する。 敬老の会に年長が参加日舞を披露年末の夜回りに参加。 | |
| 取組みの工夫 | 行事ごとにいらした町会の方々を紹介する。先生たちにも、地域の保 育園、そして一員である事に意識をもたせる。 | |
| 取組みの成果 | 婦人部の方に園児に盆踊り指導をしてもらう。町会の方々から園の行 事に協力してもらう。子ども達が様々な年代の方々と触れ合う事で社 会性を養い、身に付ける。地域に開かれた園として浸透している。 | |

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

| | | | |
|--------|-------------------------|------|--------------|
| 事業本部 | 保育事業本部 | 施設名 | 万願寺保育園 |
| 責任者 | 長谷川 育代 | 担当者 | 吉原 豊子 |
| TEL | 042-587-0592 | FAX | 042-587-0592 |
| E-mail | manganji@jcom.zaq.ne.jp | 活動地域 | 日野市 |

| | | |
|--------------------------------------|---|--|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | |
| | ② 書き下ろし記事 | |
| | ③ その他 | |
| 事例の名称 | 園庭開放、サークル支援 | |
| 実施体制 | 地域保育士専任 | |
| 取組みの開始年 | 西暦 2015 年 4 月 | |
| 取組んだきっかけ・地域のニーズ | 地域の方にアンケートを実施、居場所が欲しいという要望があり、縁側のある多目的ホールを造り園庭開放、サークル活動の支援を行っている。地域専門の保育士を配置している。又、東京都のサービス推進費補助金の対象事業として「サークル支援」があったが、平成 27 年度より制度が変わり対象から外れたが、公益事業としてとらえなおし、継続して実施。 | |
| 主な対象者 | 地域の子育て親子 | |
| 具体的な内容 | <p><園庭開放></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由な時間に来園。遊びを提供し保育、栄養、保健などの育児相談も行う。 ・育児講座も取り入れながら保育園の持っている特性を生かしながら支援を行う。 ・園児と遊び体験保育的な取組も行う。 <p><サークル支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士の交流の相互支援、保護者の自主的活動を促す。 | |
| 取組みの工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・専門の保育士を配置しいつも同じ人が受け入れをして安心できる雰囲気を作る ・保健相談の日を設け、気軽に育児相談を行える雰囲気をつくる。 ・単独で来園される方は誰かと繋がるように(お友達作り)している。 ・園児が遊びに行き、保育園で行っている歌、体操など一緒に行う | |
| 取組みの成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育園の近隣の方が利用され、リピーターが多い。 ・近隣の方が多いので、幼稚園、小学校入園後も声をかけ合い、成長を見守る事が出来ている。 ・サークルは自主活動ができるようになり、見守り、助言、備品等の貸出などの支援を行っている。 | |

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕2016年 7月29日

| | | | |
|--------|-------------------------|------|--------------|
| 事業本部 | 保育事業本部 | 施設名 | 万願寺保育園 |
| 責任者 | 長谷川 育代 | 担当者 | 萩尾 梨紗 |
| TEL | 042-587-0592 | FAX | 042-587-0592 |
| E-mail | manganji@jcom.zaq.ne.jp | 活動地域 | 日野市 |

| | | |
|--------------------------------------|--|--|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | |
| | ② 書き下ろし記事 | |
| | ③ その他 | |
| 事例の名称 | 高齢者施設訪問 | |
| 実施体制 | | |
| 取組みの開始年 | 西暦 年 月 | |
| 取組んだきっかけ・地域のニーズ | サービス推進費 子育て支援事業として行っていたが、新制度となり加算の対象ではなくなったが、継続して実施している。 | |
| 主な対象者 | 近隣 施設 介護付き有料老人ホームライフコミュニケーション日野 介護老人保健施設サルビア 介護老人保健施設ロベリア 愛の家グループホーム日野 | |
| 具体的な内容 | 入所者の方との交流をもっている。触れ合いや、歌の発表、運動会参加等、行事を通しての日本の文化・遊びの伝承をいただく機会ともなっている。 | |
| 取組みの工夫 | 歌なども、一緒に歌える歌や簡単な振り付けを行い一緒に楽しみながら、お年寄りと触れ合うことの喜びから、子ども達自身に敬う心の育ちに繋がる場としている。 | |
| 取組みの成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・触れ合いを通しての入所者の方の笑顔が見られることが一番の成果である。 ・職員の技術力を上げる場として考えている (声のかけ方、ふれあいの技術…) | |

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕平成 28 年 月 日

| | | | |
|--------|--------------------------------|------|--------------|
| 事業本部 | 保育事業本部 | 施設名 | しせい太陽の子保育園 |
| 責任者 | 廣瀬 優子 | 担当者 | 斎藤清美、渡邊里美 |
| TEL | 042-586-6433 | FAX | 042-582-7055 |
| E-mail | taiyonoko@ec1.technowave.ne.jp | 活動地域 | 日野市 |

| | | |
|--------------------------------------|---|--|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | |
| | ② 書き下ろし記事 | |
| | ③ その他 | |
| 事例の名称 | 育児講座 | |
| 実施体制 | 年6回実施 | |
| 取組みの開始年 | 西暦 2006年 4月 | |
| 取組んだきっかけ・地域のニーズ | 東京都サービス推進費補助金対象事業としてスタート。平成 27 年度より、対象から外れたが、公益事業として継続して実施している。地域から期待されている。 | |
| 主な対象者 | 地域の子育て家庭 | |
| 具体的な内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・園医による子どもの病気・歯科に関する学習 ・モンテッソーリ教育に理解を深めてもらうための体験型の学習会 ・ベビーマッサージを行い親子の関係を深める ・親子で園の行事に参加し、製作を楽しむ | |
| 取組みの工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・子育ての正しい知識を得る場の提供 ・親子で楽しめる場の提供 | |
| 取組みの成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎回、楽しみにしてくれている方が多い ・より保育園が身近になったり、子育ての相談もできる | |

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕平成28年 月 日

| | | | |
|--------|--------------------------------|------|--------------|
| 事業本部 | 保育事業本部 | 施設名 | しせい太陽の子保育園 |
| 責任者 | 廣瀬 優子 | 担当者 | 岸優香・平田玲乃 |
| TEL | 042-586-6433 | FAX | 042-582-7055 |
| E-mail | taiyonoko@ec1.technowave.ne.jp | 活動地域 | 日野市 |

| | | |
|--------------------------------------|---|--|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | |
| | ② 書き下ろし記事 | |
| | ③ その他 | |
| 事例の名称 | 子育て支援情報誌の発行 | |
| 実施体制 | 地域の方に子育てに関する情報を、年11回発行 | |
| 取組みの開始年 | 西暦2006年 5月 | |
| 取組んだきっかけ・地域のニーズ | 地域の子育て中の親の育児支援になるよう情報誌を作成し、園前に置く。興味のある方にも情報提供。 | |
| 主な対象者 | 地域の子育て中の親。興味のある方。 | |
| 具体的な内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・栄養、保健の情報を提供。 ・参加できる講座、行事のお知らせ。 ・利用できる情報のお知らせ。 | |
| 取組みの工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・気軽に手に取ることが出来るように園の前に設置。 ・すぐに役立つ情報。 ・地域で孤立しがちな親が気軽に保育園に遊びに来られるきっかけになるように作る。 | |
| 取組みの成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・当園の子育てイベントへの参加のきっかけになっている。 ・当園の利用できるサービスの発信になっている。 | |

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕平成28年 月 日

| | | | |
|--------|--------------------------------|------|--------------|
| 事業本部 | 保育事業本部 | 施設名 | しせい太陽の子保育園 |
| 責任者 | 廣瀬 優子 | 担当者 | 加藤 知子 |
| TEL | 042-586-6433 | FAX | 042-582-7055 |
| E-mail | taiyonoko@ec1.technowave.ne.jp | 活動地域 | 日野市 |

| | | |
|--------------------------------------|--|--|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | |
| | ② 書き下ろし記事 | |
| | ③ その他 | |
| 事例の名称 | 体験保育 | |
| 実施体制 | 地域の未就園親子が在園児と一緒に月1回保育所体験をする。 | |
| 取組みの開始年 | 西暦 2006年 5月 | |
| 取組んだきっかけ・地域のニーズ | 待機児が多く、地域の未就園児とその保護者の育児支援を公益事業として実施。 | |
| 主な対象者 | 地域に住む未就園児とその保護者 | |
| 具体的な内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・在園児と一緒にリズム体験をし、保護者にもその様子を見てもらう。 ・在園児と一緒に給食を食べる、保護者にもその様子を見てもらう。 ・リズムや給食までの時間は一緒に遊んで過ごす。 | |
| 取組みの工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・なるべく同年齢のクラスに入るようにする。 ・子育ての悩みなどを聞くようにする。 ・アレルギー児も受け入れている。 | |
| 取組みの成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・同じ方がリズムと給食両方に参加したり、翌月も参加している。 ・在園児にとっても地域の子と関わる良い機会となっている。 ・一時あずかり保育につながっている。 | |

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕平成28年 月 日

| | | | |
|--------|--------------------------------|------|--------------|
| 事業本部 | 保育事業本部 | 施設名 | しせい太陽の子保育園 |
| 責任者 | 廣瀬 優子 | 担当者 | 岸優香・平田玲乃 |
| TEL | 042-586-6433 | FAX | 042-582-7055 |
| E-mail | taiyonoko@ec1.technowave.ne.jp | 活動地域 | 日野市 |

| | | |
|--------------------------------------|---|--|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | |
| | ② 書き下ろし記事 | |
| | ③ その他 | |
| 事例の名称 | 地域交流 | |
| 実施体制 | 近くの高齢者通所施設のお年寄りと年に6回程交流を行う。 | |
| 取組みの開始年 | 西暦2006年 5月 | |
| 取組んだきっかけ・地域のニーズ | 東京都サービス推進費補助金対象事業として始める。平成27年度より、対象から外れたが公益事業として継続して実施している。地域からも喜ばれている。 | |
| 主な対象者 | 地域の高齢者通所施設を利用するお年寄り | |
| 具体的な内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者通所施設訪問。 ・歌を歌ったり、手遊びやゲームをして過ごす。 ・ハロウィンの際の訪問場所の1つ。 | |
| 取組みの工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・1学年ずつ(6~12人)で訪問し、落ち着いて交流ができるようにする。 ・ジャンケンや手遊びなどで意図的に触れあえる内容にしている。 ・童謡を入れ、高齢者の方も歌に参加できるようにしている。 ・帰りには必ず握手をして自然に触れあえるようにしている。 | |
| 取組みの成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちとの触れ合いを毎回楽しみにしてくれている。 ・普段触れ合う機会が少なくなっている高齢者の方と触れあう良い機会となっている。 | |

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕 28年 7月 25日

| | | | |
|--------|--------------|------|----------|
| 事業本部 | 保育 | 施設名 | 至誠あずま保育園 |
| 責任者 | 高橋滋孝 | 担当者 | 高橋滋孝 |
| TEL | 042-533-6686 | FAX | |
| E-mail | | 活動地域 | 日野市 |

| | | |
|--------------------------------------|--|--|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | |
| | ② 書き下ろし記事 | |
| | ③ その他 | |
| 事例の名称 | 出前保育 | |
| 実施体制 | | |
| 取組みの開始年 | 西暦 2015 年 4 月 | |
| 取組んだきっかけ・地域の ニーズ | 東京都のサービス推進費補助金の対象事業として「出前保育」があったが、平成 27 年度より制度が変わり対象から外れたが、公益事業としてとらえなおし、継続して実施。 | |
| 主な対象者 | 地域の子育て親子 | |
| 具体的な内容 | 地域の公園に遊びに来ている親子を誘い、公園で保育士が歌や手遊び、パネルシアター、紙飛行機などの工作等の保育を実施する。親子には、園児と一緒に保育に参加していただく。 | |
| 取組みの工夫 | 地域の子育て支援。 園児と一緒に参加できるので、歌や手遊びなども親子で参加しやすい。 受付等もなく気軽に参加できる雰囲気作り。 参加費無料。 | |
| 取組みの成果 | 不定期だが毎回数組の参加があり、好評である。 職員にとっては保育技術を磨く研修の場にもなっている。 | |

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕 H28年 7月 28日

| | | | |
|--------|--------------------------|------|--------------|
| 事業本部 | 保育事業本部 | 施設名 | 成育しせい保育園 |
| 責任者 | 正岡里鶴子 | 担当者 | 阿部真奈美・北川英子 |
| TEL | 03-5727-2252 | FAX | 03-3416-1501 |
| E-mail | s-shisei@jcom.home.ne.jp | 活動地域 | 世田谷区 |

| | | |
|--------------------------------------|--|---|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | ○ |
| | ② 書き下ろし記事 | |
| | ③ その他 | ○ |
| 事例の名称 | 出前保育 | |
| 実施体制 | 年4回。成育医療研究センター中庭 | |
| 取組みの開始年 | 西暦 2009年 4月 | |
| 取組んだきっかけ・地域の ニーズ | 東京都サービス推進費補助金対象事業としてスタート。平成27年度より、対象から外れたが、公益事業として継続して実施している。地域で喜ばれている。 | |
| 主な対象者 | 地域の親子 | |
| 具体的な内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 中庭に遊びにきている地域の親子と保育園児の交流。手遊び、パネルシアター、紙芝居、エプロンシアター、ダンス、おやつなど。 ・ 情報誌を配り、保育園とイベントを紹介。 ・ 子育てに悩んだ時は、身近な相談場所であることを知ってもらう。 | |
| 取組みの工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・ だれでも参加しやすくする。 ・ 保育園児が積極的にお友達になってあげる。 | |
| 取組みの成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ イベントへの参加が増えた。 ・ 子育てを孤立化させない。 | |

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕 H28年 7月 30日

| | | | |
|--------|--------------------------|------|---------------|
| 事業本部 | 保育事業本部 | 施設名 | 成育しせい保育園 |
| 責任者 | 正岡里鶴子 | 担当者 | 宇佐美・秋元・谷中・三宅他 |
| TEL | 03-5727-2252 | FAX | 03-3416-1501 |
| E-mail | s-shisei@jcom.home.ne.jp | 活動地域 | 世田谷区 |

| | | |
|--------------------------------------|--|---|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | ○ |
| | ② 書き下ろし記事 | |
| | ③ その他 | ○ |
| 事例の名称 | 育児講座&育児相談 | |
| 実施体制 | 年6回実施。 | |
| 取組みの開始年 | 西暦 2009年 4月 | |
| 取組んだきっかけ・地域の ニーズ | 東京都サービス推進費補助金対象事業としてスタート。平成27年度より、対象から外れたが、公益事業として継続して実施している。地域から期待されている。 | |
| 主な対象者 | 地域の子育て家庭 | |
| 具体的な内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 年2回は、発達心理等の子ども理解への学習。 ・ 後の4回は、子どもとともに遊んだり体験したりなど。 ・ 育児相談も同時開催して、園長・主任が応じている。 | |
| 取組みの工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育ての正しい知識を得る場の提供。 ・ お楽しみがあり、ほっと一息できる場の提供。 ・ 仲間作りができる場の提供。 | |
| 取組みの成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 年々参加者が増え、リピーターも多い。 ・ 友達作りの場にもなっている。 ・ 保育園が身近になり、子育ての相談ができる場となっている。 | |

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕 H28年 7月 28日

| | | | |
|--------|--------------------------|------|--------------|
| 事業本部 | 保育事業本部 | 施設名 | 成育しせい保育園 |
| 責任者 | 正岡里鶴子 | 担当者 | 芦沢 ・新城裕美 |
| TEL | 03-5727-2252 | FAX | 03-3416-1501 |
| E-mail | s-shisei@jcom.home.ne.jp | 活動地域 | 世田谷区 |

| | | |
|--------------------------------------|---|---|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | ○ |
| | ② 書き下ろし記事 | |
| | ③ その他 | ○ |
| 事例の名称 | 小学生との交流 | |
| 実施体制 | 年6回 | |
| 取組みの開始年 | 西暦 2015 年 6 月 | |
| 取組んだきっかけ・地域の ニーズ | 東京都サービス推進費補助金対象事業としてスタート。平成 27 年度より、対象から外れたが、公益事業として継続して実施している。大きなニーズがあると感じている。 | |
| 主な対象者 | 卒園生、小学生 | |
| 具体的な内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 5～7 月：新 1 年生のホームカミング。小学校就学へのスムーズな移行を援助する。ほっとするひと時。5 歳児と一緒に散歩、七夕制作活動など。 ・ 9～10 月：在園児と小学生との交流。憧れの気持ちを育てる。戸外遊び、スポーツデーのてつだいや参加。 ・ 12～3 月：小学校への準備。学校ごっこなど。 | |
| 取組みの工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校と積極的に交流を持つ。 ・ 地域に広げていく。 | |
| 取組みの成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校への移行期ができるだけスムーズにいくように援助する。卒園生のみならず、そのお友達も大歓迎。 | |

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕 H28年 7月 28日

| | | | |
|--------|--------------------------|------|--------------|
| 事業本部 | 保育事業本部 | 施設名 | 成育しせい保育園 |
| 責任者 | 正岡里鶴子 | 担当者 | 阿部真奈美・北川英子 |
| TEL | 03-5727-2252 | FAX | 03-3416-1501 |
| E-mail | s-shisei@jcom.home.ne.jp | 活動地域 | 世田谷区 |

| | | |
|--------------------------------------|--|---|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | ○ |
| | ② 書き下ろし記事 | |
| | ③ その他 | ○ |
| 事例の名称 | 出前保育 | |
| 実施体制 | 年4回。成育医療研究センター中庭 | |
| 取組みの開始年 | 西暦 2009年 4月 | |
| 取組んだきっかけ・地域の ニーズ | 東京都サービス推進費補助金対象事業としてスタート。平成27年度より、対象から外れたが、公益事業として継続して実施している。地域で喜ばれている。 | |
| 主な対象者 | 地域の親子 | |
| 具体的な内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 中庭に遊びにきている地域の親子と保育園児の交流。手遊び、パネルシアター、紙芝居、エプロンシアター、ダンス、おやつなど。 ・ 情報誌を配り、保育園とイベントを紹介。 ・ 子育てに悩んだ時は、身近な相談場所であることを知ってもらう。 | |
| 取組みの工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・ だれでも参加しやすくする。 ・ 保育園児が積極的にお友達になってあげる。 | |
| 取組みの成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ イベントへの参加が増えた。 ・ 子育てを孤立化させない。 | |

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕 H28年 7月 30日

| | | | |
|--------|--------------------------|------|--------------|
| 事業本部 | 保育事業本部 | 施設名 | 成育しせい保育園 |
| 責任者 | 正岡里鶴子 | 担当者 | 岩井英之・新城裕美 |
| TEL | 03-5727-2252 | FAX | 03-3416-1501 |
| E-mail | s-shisei@jcom.home.ne.jp | 活動地域 | 世田谷区 |

| | | |
|--------------------------------------|---|---|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | ○ |
| | ② 書き下ろし記事 | |
| | ③ その他 | ○ |
| 事例の名称 | 高齢者施設訪問 | |
| 実施体制 | 近くのデイケアセンターのお年寄りと、年に8回位交流を行う | |
| 取組みの開始年 | 西暦 2015 年 6 月 | |
| 取組んだきっかけ・地域の ニーズ | デイケアセンターの方から申し入れがあり、公益事業として継続して実施していく。 | |
| 主な対象者 | 地域のデイケアを利用しているお年寄り | |
| 具体的な内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ デイケアセンターの訪問 ・ ゲームをしたり、歌を歌ったり、おしゃべりをしたりして過ごす。 ・ 敬老の日のイベントに招待される プレゼントの交換をする | |
| 取組みの工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 年長児を 10 人位のグループに分け、落ち着いた交流ができるようにしている。 ・ 握手をするなど、お年寄りとできるだけ触れ合い、お互いに言葉を越えて感じあえるようにしている。 近いので、日常の中でも立ち寄れるようにしている。 | |
| 取組みの成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもと触れ合うことを、お年寄りたちが大変喜んでくれる。 ・ 子どもにとっても体験を広げるとも良い機会となった。 ・ 双方が楽しみ、子どもがお年寄りに対して大変優しい。 | |

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕 H28年 7月 30日

| | | | |
|--------|--------------------------|------|---------------|
| 事業本部 | 保育事業本部 | 施設名 | 成育しせい保育園 |
| 責任者 | 正岡里鶴子 | 担当者 | 宇佐美・秋元・谷中・三宅他 |
| TEL | 03-5727-2252 | FAX | 03-3416-1501 |
| E-mail | s-shisei@jcom.home.ne.jp | 活動地域 | 世田谷区 |

| | | |
|--------------------------------------|--|---|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | ○ |
| | ② 書き下ろし記事 | |
| | ③ その他 | ○ |
| 事例の名称 | 育児講座&育児相談 | |
| 実施体制 | 年6回実施。 | |
| 取組みの開始年 | 西暦 2009年 4月 | |
| 取組んだきっかけ・地域の ニーズ | 東京都サービス推進費補助金対象事業としてスタート。平成27年度より、対象から外れたが、公益事業として継続して実施している。地域から期待されている。 | |
| 主な対象者 | 地域の子育て家庭 | |
| 具体的な内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 年2回は、発達心理等の子ども理解への学習。 ・ 後の4回は、子どもとともに遊んだり体験したりなど。 ・ 育児相談も同時開催して、園長・主任が応じている。 | |
| 取組みの工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育ての正しい知識を得る場の提供。 ・ お楽しみがあり、ほっと一息できる場の提供。 ・ 仲間作りができる場の提供。 | |
| 取組みの成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 年々参加者が増え、リピーターも多い。 ・ 友達作りの場にもなっている。 ・ 保育園が身近になり、子育ての相談ができる場となっている。 | |

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕 H28年 7月 30日

| | | | |
|--------|--------------------------|------|----------------|
| 事業本部 | 保育事業本部 | 施設名 | 成育しせい保育園 |
| 責任者 | 正岡里鶴子 | 担当者 | 吉田・廣田・下宮・森居・横山 |
| TEL | 03-5727-2252 | FAX | 03-3416-1501 |
| E-mail | s-shisei@jcom.home.ne.jp | 活動地域 | 世田谷区 |

| | | |
|--------------------------------------|--|---|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | ○ |
| | ② 書き下ろし記事 | |
| | ③ その他 | ○ |
| 事例の名称 | 子育て情報誌の発行 | |
| 実施体制 | 月1回、月末発行。地域の児童館、クリニックなどに置く。 | |
| 取組みの開始年 | 西暦 2009 年 4 月 | |
| 取組んだきっかけ・地域の ニーズ | 東京都サービス推進費補助金対象事業としてスタート。平成 27 年度より、対象から外れたが、公益事業として継続して実施している。地域で喜ばれている。 | |
| 主な対象者 | 地域の子育て中の親。興味のある方。 | |
| 具体的な内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ A4 裏表の子育て情報を発信 今月の絵本／ころゆくまでこのおもちゃ／親子で遊ぼう／子どもキッチンなど ・ 当園の地域に向けた子育てイベントのお知らせと報告。 ・ 今月の絵本／ころゆくまでこのおもちゃ／親子で遊ぼう／子どもキッチンなど | |
| 取組みの工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 目に付き、気軽に手に取ることができる。 ・ 待ち時間などに読めて、すぐに役に立つ情報。 ・ 地域で孤立しがちな親が、気軽に保育園に遊びに来られるよう、呼び水になる。 | |
| 取組みの成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「役に立つ」といわれ、ファンが増えている。 ・ 当園の子育てイベントへの参加が多くなった。 | |

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕 年 月 日

| | | | |
|--------|--------------------------|------|--------------|
| 事業本部 | 保育事業本部 | 施設名 | 成育しせい保育園梅丘分園 |
| 責任者 | 浦井 みどり | 担当者 | 須藤朋子 |
| TEL | 03-6413-9171 | FAX | 03-3425-0222 |
| E-mail | umegaoka@shisei-hoiku.jp | 活動地域 | 世田谷区北沢地域 |

| | | |
|--------------------------------------|---|---|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の】広報誌等で取り上げた既存の記事 | ○ |
| | ② 書き下ろしの記事 | |
| | ③ その他 | |
| 事例の名称 | お年寄りとの交流 | |
| 実施体制 | 保育園を主体にお年寄りに訪問して頂く。 | |
| 取組みの開始年 | 西暦2010年 6月 | |
| 取組んだきっかけ・地域の ニーズ | 地域のまちづくりセンターより保育園の子どもとお年寄りの交流をして いきたいと申し入れがあり取組みを始めた。 | |
| 主な対象者 | 近隣のお年寄り、自治会の方 | |
| 具体的な内容 | 近隣の高齢の方々に来て頂き、昔の遊びの伝承をして頂いたり、保 育園の行事に参加して頂いたり、交流を深めている。 | |
| 取組みの工夫 | ・来て頂きに当たり、子どもが招待状を制作して、手渡しで持っていき 身近な存在を感じてもらっている。 ・保育園の手づくりのおやつを差し上げたり、季節毎の行事にお誘い して保育園を知って頂けるようにしている。 | |
| 取組みの成果 | ・保育園の色々な行事とに参加して頂くことで、子どもや、職員への声 かけ等、優しいまなざしを下さり安心を得ている。 ・保護者に対して子どもを観て頂いているという安心を頂いている。 | |

2016年7月14日

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕 年 月 日

| | | | |
|--------|--------------------------|------|---------------|
| 事業本部 | 保育事業本部 | 施設名 | 成育しせい保育園梅丘分園 |
| 責任者 | 浦井 みどり | 担当者 | 須藤朋子 |
| TEL | 03 - 6413 - 9171 | FAX | 03- 3425-0222 |
| E-mail | umegaoka@shisei-hoiku.jp | 活動地域 | 世田谷区北沢地域 |

| | | |
|--------------------------------------|---|---|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の】広報誌等で取り上げた既存の記事 | ○ |
| | ② 書き下ろしの記事 | |
| | ③ その他 | |
| 事例の名称 | お年寄りとの交流 | |
| 実施体制 | 保育園を主体にお年寄りに訪問して頂く。 | |
| 取組みの開始年 | 西暦2010年 6月 | |
| 取組んだきっかけ・地域の ニーズ | 地域のまちづくりセンターより保育園の子どもとお年寄りの交流をして いきたいと申し入れがあり取組みを始めた。 | |
| 主な対象者 | 近隣のお年寄り、自治会の方 | |
| 具体的な内容 | 近隣の高齢の方々に来て頂き、昔の遊びの伝承をして頂いたり、保 育園の行事に参加して頂いたり、交流を深めている。 | |
| 取組みの工夫 | ・来て頂きに当たり、子どもが招待状を制作して、手渡して持っていき 身近な存在を感じてもらっている。 ・保育園の手づくりのおやつを差し上げたり、季節毎の行事にお誘い して保育園を知って頂けるようにしている。 | |
| 取組みの成果 | ・保育園の色々な行事とに参加して頂くことで、子どもや、職員への声 かけ等、優しいまなざしを下さり安心を得ている。 ・保護者に対して子どもを観て頂いているという安心を頂いている。 | |

2016年7月14日

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕 年 月 日

| | | | |
|--------|--------------------------|------|------------------|
| 事業本部 | 保育事業本部 | 施設名 | 成育しせい保育園梅丘分園 |
| 責任者 | 浦井 みどり | 担当者 | 須藤朋子 |
| TEL | 03 - 6413 - 9171 | FAX | 03 - 3425 - 0222 |
| E-mail | umegaoka@shisei-hoiku.jp | 活動地域 | 世田谷区北沢地域 |

| | | |
|--------------------------------------|--|---|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ①法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | ○ |
| | ②書き下ろしの記事 | |
| | ③ その他 | |
| 事例の名称 | 出前保育 | |
| 実施体制 | 近隣の公園で園児と共に行う。 | |
| 取組みの開始年 | 西暦2010年 6月 | |
| 取組んだきっかけ・地域の ニーズ | 地域の子育て支援として子育ての参考、親同士の出会いの場 | |
| 主な対象者 | 地域の未就学児の子どもと親 | |
| 具体的な内容 | ・近隣の公園に行き未就学児の親子に来て頂き、紙芝居やエプロンシアター等を提供する。 | |
| 取組みの工夫 | ・情報誌を年2回発行して地域の親子が楽しく過ごせるように、保育園の子ども達と共に参加する。 | |
| 取組みの成果 | 保育園お子ども達と一緒に参加することで同年齢のお子さんの様子が伺えている事は子育ての参考になっている。、 | |

2016年7月14日

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕 年 月 日

| | | | |
|--------|---------------------------|------|--------------|
| 事業本部 | 保育 | 施設名 | 至誠いしだ保育園 |
| 責任者 | 高橋 智宏 | 担当者 | 高橋 智宏 |
| TEL | 042-584-3100 | FAX | 042-584-3800 |
| E-mail | ishida-d@shisei2-hoiku.jp | 活動地域 | 日野市 |

| | | |
|--------------------------------------|---|--|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | |
| | ② 書き下ろし記事 | |
| | ③ その他 | |
| 事例の名称 | 夏のボランティア受け入れ | |
| 実施体制 | 日野市ボランティアセンターとの連携 | |
| 取組みの開始年 | 西暦 2012 年 7 月 | |
| 取組んだきっかけ・地域の ニーズ | 日野市ボランティアセンターのボランティア受入れ先として立候補した (地域学童・中高大学生の夏休み時期ボランティア) | |
| 主な対象者 | 地域学童・中高大学生 | |
| 具体的な内容 | 保育の手伝いをとおして仕事の楽しさや必要性を知っていただく。 主な仕事内容 ・保育補助手伝い。 ・清掃等環境整備手伝い。 | |
| 取組みの工夫 | ・将来、地域を担う住民となる対象者を優先的に受け入れ、施設の必要性を知っていただく工夫として、保育の“楽しさ”を伝えている。 | |
| 取組みの成果 | ・リピーターが多い。 ・申込 60 名以上(回数制限をしているが述べ 200 名程になる。) ・卒園生の希望者が多い。 | |

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕 28年 7月 26日

| | | | |
|--------|------------------------|------|--------------|
| 事業本部 | 保育事業本部 | 施設名 | 代々木至誠こども園 |
| 責任者 | 稲永 裕子 | 担当者 | 岩井なつみ |
| TEL | 03-3485-2466 | FAX | 03-3485-2477 |
| E-mail | yoyogi@shisei-hoiku.jp | 活動地域 | 渋谷区 |

| | | |
|--------------------------------------|--|--|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | |
| | ② 書き下ろし記事 | |
| | ③ その他 | |
| 事例の名称 | 夏ボランティア受け入れ | |
| 実施体制 | 担当者(世話役) | |
| 取組みの開始年 | 西暦 2016年 8月 | |
| 取組んだきっかけ・地域の ニーズ | 今年度募集に応募 | |
| 主な対象者 | 高校生以上 | |
| 具体的な内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・こども園の子ども達との関わり 遊び相手、お世話 ・環境の準備 プールの準備、片付け、お部屋の清掃 ・制作物の手伝い | |
| 取組みの工夫 | どのようなことをやりたいか、開始前にオリエンテーション実施、意向の確認 | |
| 取組みの成果 | ・今年度初年度 将来のパパママ育成につながることを期待する | |

2016年7月14日

至誠学園 児童事業本部

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出

〔提出日〕 平成 28 年 8 月 8 日

| | | | |
|--------|-----------------------|------|-------------------------------|
| 事業本部 | 児童事業本部 | 施設名 | 至誠学園、至誠大地の家、 至誠大空の家、まことくらぶ |
| 責任者 | 高橋 久雄 | 担当者 | 古谷野 薫 |
| TEL | 042-524-2601 | FAX | 042-524-2367 |
| E-mail | info@shiseigakuen.org | 活動地域 | 立川市を中心とした近隣地域 |

| | | |
|--------------------------------------|---|---|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | |
| | ② 書き下ろし記事 | ○ |
| | ③ その他 | |
| 事例の名称 | 児童虐待防止推進月間セミナー | |
| 実施体制 | 児童事業本部が立川市社会福祉協議会と共催し、立川市のほか地域団体の後援を得て実施。 | |
| 取組みの開始年 | 西暦 2004 年 11 月 | |
| 取組んだきっかけ・地域の ニーズ | 児童虐待防止法が改正された平成 16 年、栃木県小山市で父子家庭の同居人による二人の幼い兄弟が暴行の末殺される事件が起こり地域社会で児童虐待を防止するための啓発をしていくための取組みを考える機会が求められてきた。 | |
| 主な対象者 | 一般市民、子どもの福祉や教育、健全育成にかかわる関係機関、団体の関係者。 | |
| 具体的な内容 | ① 学識経験者、関係機関・団体の実践者、本法人児童養護施設職員等による講演やシンポジウム、絆づくりワークショップ、等 ② 歌とトーク、ワークショップによる親子コンサート ③ 児童虐待防止や子どもの貧困、若者の自立支援、地域福祉関係等の活動を行う関係機関や団体のネットワークづくり | |
| 取組みの工夫 | 施設の持っているネットワークを活用した学識経験者や関係機関及び法人内の人的資源を活用した講演やシンポジウムの企画実施と立川市をはじめ地域団体の協力を得て広く市民への参加呼びかけている。また、立川市社会福祉協議会と協力しネットワークを広げていく企画を進めている。 | |
| 取組みの成果 | 民生児童委員をはじめ地域福祉にかかわる多くの関係者そして一般市民の参加がある。特に児童虐待防止の啓発活動から具体的な若者の自立や子どもの貧困、孤立した子育てなど地域の課題に取り組む団体等のネットワークが広がっている。 | |

2016 年 7 月 14 日

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕 年 月 日

| | | | |
|--------|-----------------------|------|----------------|
| 事業本部 | 児童事業本部 | 施設名 | 至誠学園 |
| 責任者 | 施設長 | 担当者 | 自立支援コーディネーター、他 |
| TEL | 042-524-2601 | FAX | 042-524-2367 |
| E-mail | info@shiseigakuen.org | 活動地域 | 至誠学園を中心にした地域 |

| | | |
|--------------------------------------|--|---|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | |
| | ② 書き下ろし記事 | |
| | ③ その他 | ○ |
| 事例の名称 | アフターケア事業 | |
| 実施体制 | 施設長、自立支援コーディネーター他、 | |
| 取組みの開始年 | 西暦 1951 年 12 月 | |
| 取組んだきっかけ・地域の ニーズ | 施設を退所した児童への支援は、法的な裏付けが得られないため、継続的かつ必要な支援をおこなうことが難しい。しかしながら、社会の状況、家族や後ろ盾のない退所者にとって、ますます保証人や困ったときの相談等の支援が求められている。児童養護施設の運営指針の中に施設に実家的な機能が求めているが経済的な裏付けはされていない。退所者からの相談に応じてできることを工夫しながら支援をしている。 | |
| 主な対象者 | 至誠学園の退所者 | |
| 具体的な内容 | ①至誠学園卒園生友の会の運営支援 ②経済的、物的、精神的な面からの直接、間接的な支援 ③「保証人の受託」など社会的なしくみへの対応援助 ④三多摩地区児童養護施設退所児童への広域的支援「多摩ユースサロン」の企画運営 | |
| 取組みの工夫 | 体制については、役割とは別に、利用者にとって相談しやすい、例えば元担当者や元園長など、オールスタッフで臨むことも必要と考えている。特定の利用者にとっては、施設は実家的な要素が強いため、思いを受け止めるための洞察が求められる。しかしながら、全てが対応しうることばかりではなく、できること、できない事を伝えていく工夫が必要となる。 | |
| 取組みの成果 | 退所しても課題が全て解決しているとは限らず、長い年月をかけて修復せざるを得ない事柄も多い。制度内ではまかないきれない部分が多いため、必要不可欠な機能ともいえる。 家族や親類に縁の薄い方たちの拠り所として機能していくことで、必要とする皆さんが力を得たり、立ち止まったり、振り返ったりできる場所として求められている。 | |

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕 年 月 日

| | | | |
|--------|-----------------------|------|------------------|
| 事業本部 | 児童事業本部 | 施設名 | 至誠学園 |
| 責任者 | 高橋本部長 | 担当者 | 石田芳朗、宮本裕太 |
| TEL | 042-524-2601 | FAX | 042-524-2367 |
| E-mail | info@shiseigakuen.org | 活動地域 | 立川市錦町を中心に活動内容による |

| | | |
|--------------------------------------|---|---|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | |
| | ② 書き下ろし記事 | |
| | ③ その他 | ○ |
| 事例の名称 | 地域児童健全育成事業 至誠サイエンスクラブ活動 | |
| 実施体制 | 事務局として職員3名(本部長、施設長、グループホーム担当) | |
| 取組みの開始年 | 西暦 1982 年 3 月 | |
| 取組んだきっかけ・地域の ニーズ | 科学技術館サイエンス友の会立川支部として指定を受け発足。その後、指定は解かれたが、継続して地域ボランティアとともに会の活動をすすめ、今日に至る。地域家庭からのニーズは高く、リピーターが多い。 | |
| 主な対象者 | 地域(立川市錦町地区、羽衣地区)の小学生を中心に、活動内容によって中学生、幼児の参加もある。 | |
| 具体的な内容 | 2 か月に一回程度の活動。活動ごとに地域小学校、町会、保育園等の協力を得て広報、募集をおこない、申込み制により参加者を募る。科学的な工作教室、博物館等の見学ツアー、自然体験ツアーなど、子どもが科学に興味をいだけるような活動を展開している。年に一回は、宿泊ツアーも企画し東京を離れたエリアでの活動もおこなっている。毎回、20～30 名程度の参加者で実施。スタッフは、地域ボランティア 15 名ほどからなり、長く活動を継続されている。 参加費は各回、実費徴収し、活動経費に充てている。 | |
| 取組みの工夫 | 至誠学園の環境や機能、専門性を活用することで、日常生活では体験できない特別な体験を地域児童に提供できている。地域小学校の理解を得て募集チラシなどの配布について協力いただいている。経験豊かな地域のボランティアスタッフが多く、安心して活動が継続できている。 | |
| 取組みの成果 | 地域家庭からユニークな活動、体験への評価が高い。 地域ボランティアの養成。 参加家庭、参加児童の施設への理解が高まる。 | |

至誠学園立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕 年 月 日

| | | | |
|--------|-----------------------|------|--------------|
| 事業本部 | 児童事業本部 | 施設名 | 至誠学園 |
| 責任者 | 高橋本部長 | 担当者 | 石田芳朗 |
| TEL | 042-524-2601 | FAX | 042-524-2367 |
| E-mail | info@shiseigakuen.org | 活動地域 | 立川市錦町6丁目 |

| | | |
|--------------------------------------|---|---|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | |
| | ② 書き下ろし記事 | ○ |
| | ③ その他 | |
| 事例の名称 | 町会子供会活動への協力 | |
| 実施体制 | 子供会担当者1名を派遣 | |
| 取組みの開始年 | 西暦 年 月(不明) | |
| 取組んだきっかけ・地域の ニーズ | 児童の生活環境としての地域の健全育成環境向上を期待され、毎年、子供会副部長として職員が参画し協力、活動している。児童福祉の専門家の参加により、子供会活動のリーダー役を任されたり、企画など期待されることも多い。 | |
| 主な対象者 | 錦町6丁目住民 | |
| 具体的な内容 | 毎年、子供会副部長として参画し、年間をとおして、子供会活動に参加協力をおこなっている。毎月の定例会、年間の行事への協力など、随時の活動。町会の活動へも連動して随時の協力をおこなっている。毎月の資源回収、防犯パトロール、行事準備や実施への参画、盆踊りやお祭りへのスタッフ派遣、安全監視、会場提供など、人的、物的多様な側面における関係のうえ活動している。 | |
| 取組みの工夫 | 担当職員が地域住民としての役割を担い、地域の皆さんと協働活動を担っている。 | |
| 取組みの成果 | 地域の子供会活動の活性化に貢献。また、地域住民のみなさんの事業所、職員、児童への理解がたかまり、良好な関係の構築に役立っている。 | |

至誠ホム 高齡事業本部

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕

平成 28 年 7 月 19 日

| | | | |
|--------|--------------------------|------|-------------------|
| 事業本部 | 高齢事業本部 | 施設名 | 至誠ホームソーシャルワークセンター |
| 責任者 | 旭事業本部長 | 担当者 | 佐藤 徹郎、鴨下 真澄 |
| TEL | 042-527-0035 | FAX | 042-527-2646 |
| E-mail | Shisei-home@shisei.or.jp | 活動地域 | 立川市南部地域 |

| | | |
|--------------------------------------|--|---|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | ○ |
| | ② 書き下ろし記事 | |
| | ③ その他 | |
| 事例の名称 | 至誠ホームふれあい夕(ゆう)ごはん | |
| 実施体制 | ソーシャルワークセンター企画調整(常勤2・契約職員2) | |
| 取組みの開始年 | 西暦 1998 年 2 月 | |
| 取組んだきっかけ・地域の ニーズ | 1996年日本生命財団より地域活動を総合的に推進していく事業への助成(3か年)を受け、地域のニーズから介護保険下の高齢者の生活を支援するサービスとして取り組む事となった。 | |
| 主な対象者 | 買い物や食事の支度が困難な立川市内、至誠ホーム近隣(錦町、柴崎町、羽衣町一部、富士見町一部)に住まう 65 歳以上の高齢者 | |
| 具体的な内容 | 配達:月・水・金 17:00~18:30 ころまでにご自宅へ至誠ホームで調理をした弁当を届ける。 配達:ボランティアと配達専門のパート職員 2 名 料金:1食 600 円 その他(友の会年会費 2,000 円 年1回) | |
| 取組みの工夫 | ①事業のネーミングにもあるように、自宅へ弁当を届ける役割を地域のボランティアの方々に担っていただき対象となる方との顔の見える関係作りに努めた。 ②配達に使用する弁当箱を、保温性があり見た目も食欲を増す「重箱」タイプを使用。 ③高齢者向けの栄養バランス・味付け・塩分に配慮した内容。 | |
| 取組みの成果 | ①一人暮らしや高齢者世帯にとり毎日の食事作りは負担になり、バランスの取れた食事を定期的 に取る事で健康で生き生きとした生活を送る事に繋がっている。 ②地域のなかで、見守りや安否確認の役割を担っている。 | |

2016 年 7 月 14 日

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕 年 月 日

| | | | |
|--------|------------------------|------|------------------|
| 事業本部 | 高齢事業本部至誠ホーム | 施設名 | 至誠特別養護老人ホーム |
| 責任者 | 吉上 恵子 | 担当者 | 高藤 淳子 |
| TEL | 042-527-0032 (直) | FAX | 042-527-0061 |
| E-mail | yoshigami@shisei.or.jp | 活動地域 | 錦町・柴崎町・単独通園可能な近隣 |

| | | |
|--------------------------------------|---|---|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | |
| | ② 書き下ろし記事 | ○ |
| | ③ その他 | |
| 事例の名称 | 介護保険外生活アクティブセンター事業 | |
| 実施体制 | 水・金:体操指導者(レク、ストレッチインストラクター)1名、介護福祉士2名 木:介護福祉士2名 + PT2名 | |
| 取組みの開始年 | 西暦 2014年 4月 | |
| 取組んだきっかけ・地域のニーズ | そもそも、介護保険の通所介護(短時間型)事業として実施していたが、認可時に目指していた5日/週の営業が難しくなった。しかし、近隣の高齢者や地域包括支援事業所からのニーズが高く、単純に事業終了とはいかないと判断した。事業本部で検討した結果、地域貢献事業と位置付けて継続することとした。 | |
| 主な対象者 | 要支援1から要介護1程度。 自力での(送迎)車乗降、施設内移動が可能な方。 | |
| 具体的な内容 | 集団体操を軸として、その他、必要に応じてリハビリ設備を利用している個別メニューも実施している。 | |
| 取組みの工夫 | 近隣の地域包括視線センターと連携して、地域のニーズに対応できるように心がけている。 | |
| 取組みの成果 | アルコールい依存により、自立支援が必要でありつつ、介護保険対象外のためにサービスから零れ落ちていた方が、当センターに通って来ることで自立(律)に向けて状態が改善していったというような事例があった。 | |

至誠学舎立川 地域公益活動 事例

| | | | |
|--------|-----------------------|------|--------------|
| 事業本部 | 高齢事業本部 | 施設名 | 至誠コミケアセンター |
| 責任者 | 宮本 智行 | 担当者 | 岡崎 土方 宮本 |
| TEL | 042-548-0752 | FAX | 042-548-0756 |
| E-mail | miyamoto@shisei.or.jp | 活動地域 | 立川市柴崎町 |

| | | |
|--------------------------------------|--|---|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | ○ |
| | ② 書き下ろし記事 | ○ |
| | ③ その他 | |
| 事例の名称 | 至誠コミケアセンター「いこいの場」 | |
| 実施体制 | 制度外での生活サービス提供(健康増進、生きがい、居場所) | |
| 取組みの開始年 | 西暦 2013年 5月 | |
| 取組んだきっかけ・地域のニーズ | 故巨海昭子氏よりご遺贈頂いた建物の活用 介護保険のサービスを利用するまでではないが、市で行う体操や活動等は気軽に参加しにくい 近隣での活動場所が少ない | |
| 主な対象者 | 近隣の高齢者。自身で来ることができる方。状態像としては、自立から要支援、介護1程度までの方 | |
| 具体的な内容 | 【活動内容①】 平日の14:00から16:00 体操教室(毎木)、歌の活動(毎火)、ゲーム(毎金) いけばな、アロマ、頭の体操、塗り絵、パソコン教室(以上、月1回) 季節の行事(花見、七夕、敬老会、クリスマス会、他)、外出活動(年2回程度) 等 【活動内容②】 近隣自治会、ボランティア団体への会場貸出 | |
| 取組みの工夫 | ・低額の利用料(月にお茶代として200円) ・参加、出入り自由 ・運営委員会(利用者、ボランティア、民生委員、スタッフ)にて、活動内容等の検討 | |
| 取組みの成果 | 年間延べ利用者数1000名程度、登録者40名程度(27年度実績)。利用者より、「気軽に来れるからいい」との評価多数、気楽な社会参加の場となっている。利用者が加齢に伴い要介護等になってくると、併設の介護サービス等でフォローしていくケースも年間数件あり。会場貸出では、誕生日会等、自治会の会館は畳のため、椅子のコミで行うことで参加者も増えているとのこと | |

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕 2016年7月21日

| | | | |
|--------|------------------------|------|--------------|
| 事業本部 | 高齢事業 | 施設名 | 至誠キートスホーム |
| 責任者 | 栗原文男 | 担当者 | 川鍋治 |
| TEL | 042-538-2321 | FAX | 042-538-1302 |
| E-mail | Kiitos-HH@shisei.or.jp | 活動地域 | 立川市・国分寺市 |

| | | |
|--------------------------------------|--|---|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | |
| | ② 書き下ろし記事 | ○ |
| | ③ その他 | |
| 事例の名称 | 「ホームヘルパー再チャレンジ講座」「家族介護技術講座」 | |
| 実施体制 | キートス園長・訪問介護職員が講師を担当 | |
| 取組みの開始年 | 西暦 2008年 12月 | |
| 取組んだきっかけ・地域のニーズ | きっかけはヘルパー資格を持っていないが働いてない方に復職してもらいたかったから。また地域のニーズとしては、在宅介護をしている家族からも講座を受講して、介護知識を増やしたいというニーズがありました。 | |
| 主な対象者 | ヘルパー2級資格を取得しているが働いてない方、在宅で介護をされているご家族 | |
| 具体的な内容 | 認知症についての講義 介護技術(移乗、排泄、着替など)の講義・実習 | |
| 取組みの工夫 | 介護実習を取り入れて、知識だけでなく介護技術を体験してもらえよう工夫しています。 | |
| 取組みの成果 | 受講生がヘルパーとして働いてくれ、地域の高齢者にヘルプサービスを提供することができた。在宅介護している家族が、より適切な介護を実践できるようになった。 | |

東京都社会福祉協議会

社会福祉法人による地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕 平成 28 年 7 月 29 日

| | | | |
|--------|-------------------------|------|----------------|
| 法人名 | 社会福祉法人至誠学舎立川 | 施設名 | 至誠和光ホーム |
| 所属部署 | 至誠和光ホーム | 記入者名 | 中川 謙夫 |
| TEL | 042-527-0034 | FAX | 042-527-2646 |
| E-mail | n_nakagawa@shisei.or.jp | 活動地域 | 立川市・日野市・武蔵村山市等 |

| | | |
|------------------------------------|---|--|
| 事例の提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事の提供 | |
| | ② 寄稿記事の提供 | |
| | ③ 取材を前提とした情報提供 | |
| 事例の名称 | 保養ステイ事業 | |
| 実施体制 | 軽費老人ホームの職員体制の中で、空いている1～2部屋を活用 | |
| 取組みの開始年 | 西暦1982年 4月 | |
| 取組んだ きっかけ・地域のニーズ | 夫婦部屋で準備した居室が空くことが多く、有効活用を考えた。 | |
| 主な対象者 | 概ね 65 歳以上の方で、身の回りのことが自分でできる方 | |
| 具体的な内容 | ① 虐待等家庭の事情を抱えた高齢者の緊急一時保護 ② 旅行等家族の外泊中における高齢者の一時宿泊 ③ ホームレスの一時保護 ④ 将来、施設入所を検討している高齢者の体験利用 | |
| 取組みの工夫 | ① ③については緊急避難の依頼が多いため、最低限の着替えや洗面道具など施設で準備している。 | |
| 取組みの成果 | 自治体から、介護保険施設に入所できない要援護高齢者の依頼が増えている。 | |
| その他 | | |

至誠学舎立川 地域公益活動 事例提出様式

〔提出日〕 2016年 7月15 日

| | | | |
|--------|---------------------|------|-----------------|
| 事業本部 | 高齢事業本部 | 施設名 | 至誠ホーム調布若葉ケアセンター |
| 責任者 | 井上 富士子 | 担当者 | 井上 富士子 |
| TEL | 03-3326-7600 | FAX | 03-3326-3040 |
| E-mail | wakaba@shisei.or.jp | 活動地域 | 東京都調布市 |

| | | |
|--------------------------------------|---|--|
| レポートの提出方法 ※希望の提出方法に ○を付けてください。 | ① 法人や事業所の広報誌等で取り上げた既存の記事 | |
| | ② 書き下ろし記事 | |
| | ③ その他 | |
| 事例の名称 | 社会福祉法人調布市社会福祉協議会ひだまりサロン事業 「若葉カフェ」 | |
| 実施体制 | 地域住民主体による活動 | |
| 取組みの開始年 | 西暦 2014年 8月 | |
| 取組んだきっかけ・地域の ニーズ | 地域に開かれた施設を目指して、地域住民に足を運んでくれる機会を持つ取組として社協と連携して運営スタッフを地域住民から募り実施に至った。運営スタッフは、ボランティアである。その団体に対して社協からの助成がある。開催にあたり、至誠ホーム調布若葉ケアセンターが場所を提供している。 | |
| 主な対象者 | 地域住民 | |
| 具体的な内容 | 当センター コミュニティホールにて月1回の活動。運営スタッフ3人が中心となり、講師にきていただいで勉強会や人形劇、お抹茶を楽しむ会等実施。毎回20名ほどの参加がある。時には、当センターと若葉カフェの共催で音楽会も開催。さらに毎年開催している至誠ホーム調布バザーにも出店。 | |
| 取組みの工夫 | 若葉カフェが円滑に実施できるように環境を整備している。 | |
| 取組みの成果 | この事業により多くの地域住民が足を運んでくれ、理解を深めるきっかけとなっている。確実に地域にその役割が認知されてきている。 | |

2016年7月14日

東社協 事例総括資料から

社会福祉法人ならでの課題解決の視点

東京の社会福祉法人による地域公益活動34事例の具体的な取組みを、主に取組んでいる施設種別ごとに「気づいたニーズ」「課題解決の視点」「方策」「効果」にわけて分類すると以下の通りでした。

1 高齢者福祉施設における取組み

| No | 0 ニーズの アロ-手続 | ②種別 | ③法人名 | ④気づいたニーズ | ⑤課題解決の視点 |
|----|-----------------|----------------------|--------------|---|--|
| 1 | 居場所づくり | 高齢 障害 児童 | (社福) 福栄会 | 町会会館等を会議以外にも活用できないか町会・自治会が考えていた。地域には一人暮らしの高齢者も多く、家にこもりがちの方もいる。 | 概ね65歳以上の元気な高齢者を対象、住民のニーズを知る町会・自治会のアイディアを基に、法人のちのちノウハウや資源を活用して地域住民向けのプログラムをつくり提供する。 |
| 2 | 居場所づくり | 高齢 障害 児童 | (社福) 鹿瀬野 | 自治会と共同で実施した調査で、同地で暮らす高齢者のうち、半数が80歳以上で、そのほとんどが独居または高齢夫婦のみの世帯だった。食事を一人で食べている方が半数で、会食型食事サービスの利用希望者が半数いた。 | 足腰が弱って施設まで来られない人にも食事を届けた。1食1食を通して住民同士が出会える居場所をつくり、地域と関わりたい。 |
| 3 | 居場所づくり | 高齢 | (社福) 多摩済生医務院 | 社協の「ふれあい交流会」の委託が終了したが、活動が定着し住民にとってなくてはならない場所になっていた。地域の元気高齢者が気軽に集え、生きがいづくりとなる居場所が少ない。 | 社協の「ふれあい交流会」受託終了後も、独自事業として継続。 |
| 4 | 居場所づくり | 高齢 | (社福) 芙蓉会 | 市の委託事業で設置した委員会でのアンケート調査の結果、都営住宅の住民から「皆で集える場所が欲しい」との声があった。 | 地域で子どもや障害のある人も共に集い、一緒に過ごすことができる場を提供していきたい。 |
| 5 | 居場所づくり | 高齢 | (社福) 小夜根の郷 | 事業運営の中で、地域から孤立した方がSOSを出せずにいるケースなどを把握していた。また、安否確認や食事提供はできても、住民同士の関係づくりは難しい。 | 地域に求められる支援を提供したい、地域が持つ力を引き出した。地域の課題を一つずつ解決したい、この地域で生活できしあわせを実感してほしい。 |
| 6 | 居場所づくり | 高齢 | (社福) みその福祉会 | 外出の機会が少ない方、日中一人で過ごすことが多い方がいる。 | 地域に出て仲間づくりをすすめる、自主グループ化をめざして地域の支え合いを強めたい。 |
| 7 | 訪問支援 | 高齢 | (社福) マザアス | 市の配食サービスを受託してない民間の業者が、「採算が合わない」という理由から1年で撤退してしまった。 | 市が配食サービス事業者を募集した際に、手を挙げ受託。採算を重視せず地域貢献のため実施。 |
| 8 | 相談支援 | 高齢 障害 保育 救護 | (社福) 村山苑 | 支援が必要でも助けを求めずるべきを知らない人が地域に多くいる。 | 対象者を限定しない地域生活での困りごとに対応し、早めに対応する。発見し適切な支援につなげたい。 |

社会福祉法人の課題解決の視点

各社会福祉法人は、日々の実践や事業展開を通じて気づいた「地域のニーズ」に対して、法人の理念や基本方針に基づき、「地域から求められる支援を提供したい」、「制度だけでは支援できないニーズに対応したい」、「誰もが地域社会の中でいきいきと暮らしていけるように」などの思いを持って、住民やその他団体との協力により地域公益活動を実践していました。

| 事例 | ⑥方策 | | ⑦効果 | ⑧事例 |
|----|-----------------------------------|---|--|-----|
| | 関係者 | 内容 | | |
| 1 | 町会・自治会、民生児童委員、町会ボラ、ボランティア、ケアマネジャー | 町会・自治会集客場等や法人ロビーを地用し、法人職員が地域に出向くミニサロンを開発。 | 顔を合わせた時に声を掛け合うなど、住民が元氣になった。高齢者の生活や食事をミニサロンで伝えながら、福祉サービスが必要なままでは、自分たちで頑張ろうと予防力を入れてもらっている。 | 1 |
| 2 | 自治会、生活支援コーディネーター、ボランティア | コミュニティ食堂を団地の集客場にオープン。職員を派遣し調理や相談対応、運営のコーディネートを実施。 | 相談になる少し前の困りごとや悩みをキャッチし、専門職が早めにアプローチ。介護保険サービスやその他の社会資源につながる。専門職主導ではなく、同地住民が中心に取り組むことで自然な近所づきあいや顔見知りネットワークが広がる。 | 2 |
| 3 | 社協、民生児童委員、ボランティア、地域包括支援センター | 会場提供、生活相談員による運動調整、資料印刷、会食での食事提供。 | 開始から24年が経ち、交流会参加者が法人の福祉サービスを利用するケースが増え続けているが、その人の「人となり」を把握していることでニーズなサービス利用につながる。小中学校の職場体験受け入れや学校での職業講話など施設と地域の連携も生み出している。 | 3 |
| 4 | 町内会、認知症家族会 | 民間の借家を借り、気軽に立ち寄れる場を設け、職員を配置。 | 介護保険をどう利用できるのか知りたいたいという声にこたえ、近隣の他事業所の協力を得て、地域住民向け見学会などを実施。支える側、支えられる側の垣根が低く、自然な楽しさがある。 | 4 |
| 5 | 老人会 | 運動機器を使用したリハビリクラブ、施設内でのランチクラブ、高齢者雇用、老人会との交流 | ボランティア活動をしながら運動する方やデイスーツに通うのはためらう方など、男性の参加者が多い。友達づくりのきっかけや引きこもりの予防につながる。 | 5 |
| 12 | 行政、社協 | 社協のサロンに登録(成増ランチ倶楽部) | ランチ倶楽部が家から外に出るきっかけになっている。参加者が、施設に慣れ施設の中で自由に過ごしている姿もみられる。 | 12 |
| 13 | ボランティア、社協、地域包括支援センター、ケアマネジャー | 市内全域を対象とした配食サービス | 配達先の方が不在の際は、地域包括支援センターや社協と連携し、所在確認を行う。食事を届けるボランティア同士のきずなも深まり生き生き活動している。また、配達先の家族が、お弁当を届ける側にとどめる展開もみられる。 | 13 |
| 22 | 行政、地域包括支援センター、社協(福協力会)、民生児童委員 | 生活相談事業(専従1名含む3名体制) | 支障にたどり着いていない人の生活の崩壊を未然に防ぐことが出来た。一方制度の枠を越えた連携により、法人内外の支援する側の意識が変わってきた。また、この地域が抱える問題を把握することが出来、求められる新たなサービスの方向性が見えてきた。 | 22 |

| No | ①ニーズの アロ-カシ | ②種別 | ③法人名 | ④気づいたニーズ | ⑤課題解決の視点 | ⑥方策 関係者 内容 | ⑦効果 | ⑧事例 |
|----|----------------|----------------|-----------|---|---|---|--|-----|
| 9 | 相談支援 | 高齢 障害 | (社) 聖三ハネ会 | さまざまな課題を抱えている方の中には、福祉サービスや事業の枠組みからはこぼれ落ちてしまったりニーズがある。 | 法人理念に基づき、制度だけでは支度できない地域で暮らす方のニーズに対応したい。 | 法人内各部門の連携（在宅支援、施設職員など）、行政介護福祉課、地域包括支援センター | 個別の相談に応じたフイッティングサポートを実施。 | 16 |
| 10 | 相談支援 | 高齢 障害 児童 | (社) 聖三ハネ会 | 施設内の利用者だけでなく、地域の方も、その人らしい生き方やいまの健康状態を維持できるように支援を求めたい。 | 法人が提供するサービスの中で把握したニーズや課題、そして課題解決のために行ってきたことを、地域で生活課題を抱える方に対して情報提供、情報発信していく。 | 法人内各部門の連携、ボランティア、社協 | コーディネーターが地域行事にも積極的に参加し、町会や住民組織とも顔が見える関係になってきている。地域住民・施設利用者・職員の交流も開催。 | 23 |
| 11 | 学習支援 | 高齢 | (社) 武尊会 | 地域の若者や子どもに関心を広げたいところ、学習意欲がないから、経済的事情で塾に通えない子どもが多いことが分かった。 | 子育て世代の負担を軽減し、子どもたちの将来をより安定したものにしたい。それが、地域全体の福祉に貢献することになる。 | ボランティア（高校生から高齢者まで）、無料の学習指導塾で学習支援と食事提供を実施 | 勉強だけでなく、相談や雑談ができる大人がいることは、孤立しがちな子どもにとって大切。他の子どもと一緒に過ごすことが難しい子に対しては、中学3年生の卒業まで見放さず支援する。 | 26 |
| 12 | その他 | 高齢 保育 | (社) 安立園 | 触法者の再犯の背景には、社会での居場所や頼る人がいないことがある。また、触法者を受入れる社会福祉施設が少ない。 | 「触法者」という枠ではなく、一人一人の人間として家庭的な関わりをしたい。 | 保護観察中の方や犯罪歴がある方の受入れ、保護観察対象者の地域貢献活動への場の提供 | 自分で自分の生活を組み立てる支援を行い、家庭的な関わりを希望する。身寄りがなく亡くなった方へは、生前の希望に沿って、施設内で葬儀・告別式を執り行う。 | 29 |
| 13 | その他 | 高齢 | (社) 練馬豊成会 | 区内の公立学習支援保育で申込みが定員を上回り、利用できない子どもがいた。 | 子どもも高齢者もいる普通の暮らしを実現したい。 | 放課後児童健全育成事業を開始 | 高齢者福祉と児童福祉の2つの視点を法人として持って、地域の高齢・子育てで世帯双方の拠点となる。近隣の小中学校との交流機会が増えた。 | 32 |

2 障害者福祉施設における取組み

| No | ①ニーズの アロ-カシ | ②種別 | ③法人名 | ④気づいたニーズ | ⑤課題解決の視点 | ⑥方策 関係者 内容 | ⑦効果 | ⑧事例 |
|----|----------------|-----|-------------|--|---|--|--|-----|
| 1 | 居場所づくり | 障害 | (社) つくりこの家 | 障害で生きづらさを感じている方が居場所を求めている。 | 障害の有無にかかわらず、いろいろな人がが持ち味を活かし、お互いに支え合い学び合える場をつくりたい。 | リサイクルショップ、工房、喫茶室など | 店という形で地域に住む人々が自然に接するようになったことで、住民とさまざまな機種の機種のつながりが生まれた。構造的な地域のニーズに対して地域と法人が協力していく関係性がつくられた。 | 10 |
| 2 | 居場所づくり | 障害 | (社) かいゆう | 対象者を限定しない「誰もが集える場所」が少ない。 | 対象者を限定しない、いろいろな人が集まる居場所をつくりたい。 | フリースペースをオープン。手芸品販売、リサイクル品等の展示販売、写真や書道の展示 | 住民が思い思いに利用する中で、何気ない会話から困りごとが気づき、相談や課題になる前にそっと支える。 | 11 |
| 3 | 相談支援 | 障害 | (社) 友愛学園 | 障害のある方の中には、障害者福祉サービス等の支援が必要な状態であるにもかかわらず、本人に「困っている」という認識がない方がいる。 | 生活困窮障害者が地域社会の中でいざいざと暮らしていきけるようにしたい。 | 独自の障害者への支援、訪問看護、家事援助、移動支援のヘルパーなど | 本人が本来に望む生活につながるため、希望や意欲を引き出し、孤立した生活から地域社会との関わりの中での暮らしにむかっている。 | 21 |
| 4 | 就労支援 | 障害 | (社) 大田幸陽会 | 働く意欲がありながら、仕事を辞めざるを得ない障害者がいる。 | 仕事を辞めた障害者が再び一般企業で就労できるためのリターン支援の場が必要。 | 就職障害者向けに法外の中間的就労の場を立ち上げ | 利用者から再就労につながる方も出ている。 | 27 |
| 5 | 就労支援 | 障害 | (社) 多摩済生医療団 | 企業就労をめざす知的障害や精神障害がある方が働く力を伸ばすために、より実践的な就労訓練の場を必要としていた。 | 近隣に移転してきた障害者就労・生活支援センターとの連携を行う。 | 就労訓練の場を提供 | 一般企業への就労や訓練受入れ法人での直接雇用につながった方もいる。 | 28 |

| No | ①ニーズの アジェンダ | ②種別 | ③法人名 | ④気づいたニーズ | ⑤課題解決の視点 | ⑥方策 関係者 内容 | ⑦効果 | ⑧事例 |
|----|----------------|----------------|------------|--|--|--|---|-----|
| 6 | その他 | 高齢 障害 児童 | (社福) 武蔵野会 | 支援者のいない施設障害者は、福祉の支援がないと、衣食住を求めて再犯する可能性が高い。 | 関係機関と連携し、認知障害者も含めて計画的に受入れ体制を整えたい。 | 地域生活定着支援センター ・認知障害者の受入れ を法人の中期計画に 位置づけ受入れ体制 整備。 マツト運動室の無料 開放と運動プログラ ムを提供。 | 満期出所した認知障害者(知的障害のある方)の受入れを開始したが、凶悪な犯罪は1回もない。受入れた地域が第2のふるさとになることをめざす。 | 30 |
| 7 | その他 | 障害 | (社福) 東京緑野会 | 自立退園した身体障害のある方が地域生活を継続していくために、身体的・精神的なアフターフォローが必要。 | 施設の設備を開放し、在宅では困難な運動メニューを提供。近況を聞きながら思いを吐き出せる場にした。 | マツト運動室の無料 開放と運動プログラ ムを提供。 | 地域で暮らす自立退園者の身体的・精神的な支えとつながっている。また、地域開放の利用者をおして地域にある調理事業所などと施設の関係が深まる機会にもなり、アドバイザーやフォローが行える。 | 34 |

3 児童・女性福祉施設における取組み

| No | ①ニーズの アジェンダ | ②種別 | ③法人名 | ④気づいたニーズ | ⑤課題解決の視点 | ⑥方策 関係者 内容 | ⑦効果 | ⑧事例 |
|----|----------------|----------------|-----------------|---|---|--|--|-----|
| 1 | 居場所づくり | 保育 | (社福) 新田保育園 | 再開発で大型マンションが多数建設され、子育て世帯が増加。孤立して子育てをしている世帯が多い。 | 子育て世帯の親同士の交流や仲間づくりの場、安心して悩み相談ができる場所が必要。 | 常設の子育てサロン と一時保育を設け、 サロンに職員を1名 配置。 | 専任の担当保育士がいることで、困ったときにいつでも悩みを相談できる場所となっている。保健師から紹介された親子も来るように。 | 6 |
| 2 | 居場所づくり | 保育 | (社福) 新川中原保育園 | 保育園は地域の子育て家庭の育児相談を掲げているが、障害児が自ら保育園に電話をかけて相談するのはハードルが高い。 | 保育園の中に、いつでも、だれでも訪ねることができる「居場所」を用意し、保育士や親同士が話す中で子育ての悩みが自然に解決できるようにしたい。 | 親子広場を常設 | 広場において、子育てのしかたを自然に伝えている。集団の中でできたことを共有し、親の自信を育むことにもつながっている。 | 7 |
| 3 | 居場所づくり | 保育 | (社福) タビデ会 | 日中、行き場のない高齢者の姿や中高生・小学校高学年の万引きや恐喝まがいのトラブルの相談等が保育園児の保護者から寄せられた。 | 社会福祉法人としてできることを探索し、異世代が集うしくみづくりが必要と考えた。 | 商店街に異世代が集 える「地域ふれあい 館」を開設 | 利用者が利用層及び時間帯を選べるプログラムを提供。登録制にすることで、本当に支援を必要とする人が利用するようになった。 | 8 |
| 4 | 居場所づくり | 母子 | (社福) 新宿区社会福祉事業団 | 虐待や親のDV場面を目撃した子どもの心の傷を入所中の短い期間で癒すのは難しく、退所後も継続したかわりが必要。 | 社会に出てつまづいたときに帰ってこられる頼れる場所をつくりたい。 | 無料学習塾、食事支 払いながらなんと く過ごす場所チャ ームの全 家の全 | 無料学習塾には、退所した子どもだけでもなく、地域で厳しい環境に置かれている子どもも参加している。 | 9 |
| 5 | 訪問支援 | 乳児 児童 保育 | (社福) 二葉保育園 | 地域の子育て支援事業を利用していない親子が心配。支援が必要なのに適切に届いていないのが不安。 | 待つ支援ではなく、アウトリーチ型の支援が必要か。 | 養成講座を受けたボ ランティア(育児 経験者、保育士経験 者等)、行政 | 子育て経験を活かし同じ目標をもつ住民同士のかかわりができ、悩みを引出すやすい。利用者にとっては無料なので敷居が低く、子育てサービス利用のきっかけにつながっている。 | 14 |
| 6 | 訪問支援 | 児童 高齢 母子 | (社福) 共生会 | 虐待を受けた児童を施設で丁寧な支援をしているだけでは、虐待数は増え続け、虐待そのものをなくすことにはつながらない。 | 入所している児童だけでなく、地域の子どもや母親への支援が必要。 | 養成講座を受けたボ ランティア(子育て 経験者等) | 予約以上に養育世帯が多いと感じた。子育て情報を伝えて、結果として虐待予防の効果もめざす。育児経験があるホームビジット(ボランティア)は、同じ目線で話しやすいメリットがある。 | 15 |
| 7 | 相談支援 | 保育 | (社福) わかば福祉社会 | 就学後、学習に困難を示して学習障害(LD)と診断される子どもが少なくない。 | 就学前の早期にLD状態になることを防ぐことができないか。 | 大学、NPO、近隣 保育園・幼稚園 | 子どもたち自身が、今までできなかったことができるようになり生き生きしてくる。 | 20 |
| 8 | 相談支援 | 児童 | (社福) 青少年と共に歩む会 | 退園者が、その後、安定して生活していくための支援が十分ではない。 | 退園者が、その後も、安定して生活していくための支援が十分ではない。 | 来所・電話相談、訪問、同行等。 | 向度でも生活を立て直す手伝いをする。青年期を過ぎても、「仕事」「お金」「家族」のことなど悩みは尽きない。50代の退園者から相談入ることもある。 | 18 |

| No | ①ニーズへのアプローチ | ②種別 | ③法人名 | ④気づいたニーズ | ⑤課題解決の視点 | ⑥方策 | ⑦効果 | ⑧事例 |
|----|-------------|-----|---------------------|--|--|-----------------------------------|--|-----|
| 9 | 相談支援 | 女性 | (社福) ベテスタ 奉仕女母の家 | 退養後の生活に不安を抱える方があり、退養者への支援を丁寧に行いたい人が人と時間が十分でない。生活を楽しむためのスキルが十分ではなく、継続した支援が必要。 | ホームビジターを参考に、子育て経験等のノウハウを地域の方に伝えて参画してもらいたい。同じ地域の生活者の視点での「ちよっ」として手助けが必要。 | ポランティア(元職、地域、ボランティアの方など) | 「食べる」「寝る」「仕事をやる」という生きるための最低限のスキルだけでなく、生活者の目線での「ちよっ」として手助けで自分らしく生活することにつながる。 | 17 |
| 10 | 相談支援 | 女性 | (社福) 慈愛会 | 経済的困難、精神的に不安定、過去に虐待や暴力を受けたことなどがあるなど、利用者の多くは社会や家族から孤立している。 | 地域の関係機関との連携を通して退養後の母子を地域で見守る環境づくりが必要。 | 来所・電話相談、退養者の集いの場(月1回)、母乳相談、同行支援など | 買い物などの同行支援をしながら様子を見守り、気になる点があれば地域の関係機関と連携する。 | 19 |
| 11 | その他 | 保育 | (社福) ひかりの子 | 同じ地域に園庭のない保育園が増えた。地域の子どもたちの遊び姿をみてみると、遊び方がわからなくなったり、動きがきこづらく感じた。 | 保育所の子どもの育ちを地域の子どもの育ちへつなげ、今の時代に必要とされる力の土台づくりが必要。 | 地域の親子、区内保育園、小学生向け体験活動プログラムの提供 | 「経験」することを重視したプログラムを提供し、経験させたい保護者が多くいる。また、保護者を対象とした企画も行い、地域のつながりをつくる場にもなっている。 | 31 |

4 その他

| No | ①ニーズへのアプローチ | ②種別 | ③法人名 | ④気づいたニーズ | ⑤課題解決の視点 | ⑥方策 | ⑦効果 | ⑧事例 |
|----|-------------|--------|----------------|---|---|--------------------------------|---|-----|
| 1 | 相談支援 | 医療 | (社福) 桜ヶ丘記念事業協会 | 措置入院や生活保護受給者を積極的に受入れる病院が少なく、福祉事務所では、精神科の医療扶助受給者の実態把握が困難だった。 | 精神科病院という特性を活かして福祉事務所と連携する必要性。 | 福祉事務所、病院 | 受診を拒否する方や治療を中断中の方へ、必要は助言を行うことで適切な医療の受診につながる可能性がある。職員にとっても実際の生活環境に触れ、患者さんを理解する貴重な機会になっている。 | 24 |
| 2 | 学習支援 | その他 | おおたスマイルプロジェクト | ひとり親家庭の子どもの中には、学習の機会や社会的経験、他者との交流が少ない子がおり、未来の自分を描きにくい。 | 一人では解決が難しいことも、複数の法人が連携し、課題に応じて有する資源を活用し課題解決につなげていきたい。 | 福祉事務所、区民会、自治会、民生委員児童委員協議会、小中学校 | 「活動に協力したい」という地域から声があり、そうした声が新たな活動プログラムの開発につながった。資格取得を通じて、子どもたちが目標を持って勉強に取り組めるようになった。 | 25 |
| 3 | その他 | 高齢障害児童 | (社福) 武蔵野会 | 法人内の看護師を対象として「HIV感染者の受入れ」をテーマに研修を実施したが、必ずしも全職員が受入れに賛成できないう状況があった。 | 法人の理念に沿った福祉施設が差別を生み出さないように、HIV/エイズの正しい知識を普及させる。 | HIV感染者受入れマニュアル作成、相談、研修を実施 | 福祉施設の受入れ実績はまだ少ないものの、環境整備を進める施設が増えてきている。 | 33 |

『地域のニーズにこたえる』

至誠学舎立川・各事業本部（施設）における取り組み

発行日：平成 29 年 1 月

発行者：社会福祉法人 至誠学舎立川

住 所：東京都立川市錦町6-28-15

電 話：042-527-7734

印刷部数：150 部